

開かれた政府を目指す 「オープンガバメントラボ」について

経済産業省 商務情報政策局
情報プロジェクト室長補佐 守谷 学

1

オープンガバメントラボの 設立の目的

オープンガバメントとは、その名の通り「開かれた政府」を目指す取り組みです。「開かれた」とは、「情報やプロセスの公開による透明性の向上 (Transparency)」「政策形成に関する各種取り組みへの国民や企業の参加 (Participation)」「国や自治体等、組織の壁を超えた協働 (Collaboration)」を指しています。また、オープンガバメントは、Web2.0の技術やサービスを活用し、従来にない新しい行政モデルを作っていくことから、Gov2.0と呼ばれることもあります。これらの取り組みは、現在、世界各国で注目されており、様々な取り組みが行われています。(図表1参照)

また、オープンガバメントの取り組みは、その取り組み内容が新しいだけではなく、開発方法や推進方法も従来の方法と大きく異なっています。従来であればサイトを作る場合、詳細な仕様書を作成し、入札し、開発そしてサービス開始というウォーターフォールの手法をとることが一般的でしたが、今回の取り組みでは、システムの基本機能ができた時点でベータ版をリリースをして、利用者の声を聞きながら修正を加えるというアジャイル的な手法で開発が行われています。これにより、リリースまでの期間を短縮すると共に、参加者ニーズに対応した仕組み作りを実現しています。オープンガバメントラボは、変化が早く柔軟な

オープンガバメントを、効率的かつ柔軟に推進するために設置した実験サイトであり、ポイントは以下の通りです。

- ① オープンガバメントに関する情報をラボに集積して、政府一丸となり積極的に推進するとともに、オープンガバメントのムーブメントを創出
- ② アイデアボックスだけではなく他のサービスも組み合わせたオープンガバメントの全体モデルを提示
- ③ ラボとしてベータ版開発と提供を行い、次期サービスを検証

図表1 オープンガバメントラボ



2

取り組みの経緯

情報公開は以前からも行われていましたが、今日のオープンガバメントの動きにつながるものとしては、英国政府が、政府内の情報を徹底して公開するPOI（Power of Information）タスクフォースを設置し、2007年6月にタスクフォースからの提言とそれに対する政府の対処策が同時に公表されたのが契機といえます。各国政府において、これまで以上の積極的な行政情報の公開と活用方策の検討が行われるようになり、政策形成への国民参加も、従来のパブリックコメント等の一方通行的な参加に留まらず、インターネットを經由して参加者相互が意見交換する民間のサイトなどに注目が集まりつつありました。

こうした中、経済産業省では、2008年10月から府省、自治体のCIO関係者が集まる行政CIOフォーラムという研究会を立ち上げ、電子行政全般を振り返り、解決策を検討すると共に、情報公開や対話を通じた新たな行政モデルの研究を開始しました。フォーラムで検討を進める中、米国では2009年1月にオバマ大統領が就任し、同時にオープンガバメント・イニシアティブが公表されました。こうして、国民との協働の中で新しい行政を作っていくというオープンガバメントのムーブメントが立ち上がり、経済産業省のフォーラム内でも議論を深めたうえで、官民のCIOが集まり2009年3月に開催されたCIO百人委員会において、「行政情報のオープン化」「政策作りへの国民参加」を重点プロジェクトとして公表しました。これが日本のオープンガバメントの始まりです。

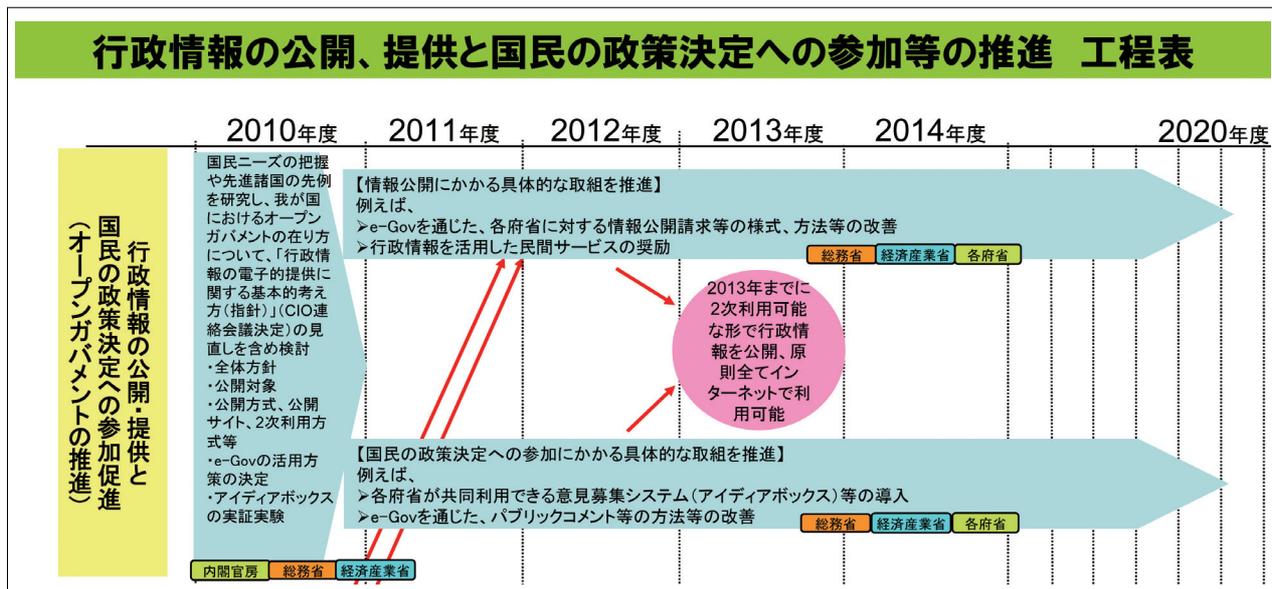
その後、実現に向けて、仕組み作りや省内外の合意形成などを行い、2009年10月に電子政府をテ

ーマにしたアイデアボックスの試行を開始しました。ここで対話型サービスの運用ノウハウなどの検証を行い、仕組みも改善した上で、2010年2月には、産業構造審議会情報経済分科会と組み合わせた、第二回アイデアボックス（ネット審議会）を実施しました。この取り組みでは、委員により構成される実際の会議と併せて、委員も参加するアイデアボックスで国民から政策提言を求め、その結果を審議会で議論するという新しい会議運営のモデルを実施しました。更にアイデアボックスは、タウンミーティング的要素も付加した文部科学省の「熟議カケアイ」にも取り組みが広がり、観光庁の「休暇分散化アイデアボックス」や行政刷新会議の「国民の声アイデアボックス」へと広がってきています。

また、国民との対話だけがオープンガバメントではないので、そのサービスの多様化のための検討も、第二回アイデアボックスの頃から進めてきました。特に2010年4月からは、「アイデアボックスの機能拡張と活用対象の横展開」という活動と、「オープンガバメントサービスの多様化」という2面の取り組みを進めてきました。このサービス多様化の中核を担うものが、2010年7月に設置されたオープンガバメントラボです。第一回アイデアボックスの時から実施してきたアイデアボックスとそのアーカイブ、アイデアボックスで寄せられた意見に対するその後の展開を報告するブログを引き継ぐとともに、情報収集・集積の場としてwikiを追加し、更に順次、統計データ提供システムの「データボックス」、政府・自治体のtwitterアカウントポータル「がぼったー」など、サービスの拡張を行っています。

2010年5月に高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部で決定された「新たな情報通信技術戦略」では、行政情報の公開、提供や政策決定への参加

図表2 新たな情報通信技術戦略工程表（オープンガバメントの推進）



等を政府として推進していくことが明記されるなど、オープンガバメントは、政府一丸の取り組みになってきています。(図表2参照)

3

オープンガバメントラボの運用について

3-1 オープンガバメントラボで提供しているサービス

オープンガバメントラボのWEBサイトでは、「アイデアボックス」「データボックス」「がばったー」「オープンガバメントWiki」のシステムの運用、各種取り組みを紹介する「オープンガバメントギャラリー」、更なる活用を可能にする「WebAPIの提供」等を行っています。

(1) アイデアボックス

アイデアボックスは、米国で実施された

「Open For Questions」と同様のシステムを用いた、国民ニーズを、正確、迅速に政策へ反映させるための非常に有用なツールです。利用方法も、誰でも簡単に参加ができるような仕組みになっています。(図表3参照)

システムの仕組みは投票機能付きの掲示板であり、参加者は、アイデアを投稿し、それに対するコメントの投稿、賛成票、反対票の投票をすることができます。ニーズの高い、優れたアイデアには賛成票が多く入り、ランキングの上位になる仕組みです。コメントや投票などの活性化状況により、今盛り上がっているテーマを一覧で見することもできます。また、アンケートを取りながら、その設問に関する議論を行う機能も提供しています。

アイデアボックスの利用実績を図表4に示します。

(2) データボックス

統計情報の活用をいっそう促進するための、統

計データ提供システムです。経済産業省で作成している統計情報の提供について、検索性を向上し、かつデータの利用法や内容等に対するコメントを付する機能を設け、より利用者ニーズに応じた利便性を向上するための実証実験を行っています。またそのほかの機能として、利用者によるWeb上での容易な統計データのグラフ化、統計表のうち利用者が必要とするデータの集計や内訳の表示等のビジネス・インテリジェンス・サービスを活用した新たな機能も試行的に提供しています。

(3) がばったー

140字までの情報をリアルタイムに投稿できるミニブログサービス、「Twitter（ツイッター）」を利用して情報を発信した政府・自治体の取り組みをまとめて紹介する、ポータルサイトです。ツイート（つぶやき）をリアルタイムに一覧表示します。11月08日時点で、102の政府/地方自治体のアカウントが紹介されています。（図表5参照）

(4) オープンガバメントwiki

オープンガバメントwikiは、国内外のオープンガ

バメント関連情報の収集を行う場として設置されたもので、ユーザ登録により誰でも編集・公表できるようにしています。オープンガバメントを実施するにあたり、実施チームは国内外の動向を広く調査していますので、これらの情報を公表しています。また、オープンガバメントを研究している個人や団体方々の知見を集積し、参加者全員により効率的にオープンガバメントを推進していくための仕組みです。

図表3 アイデアボックス画面



図表4 アイデアボックス利用実績

	期間	テーマ
第一回アイデアボックス	2009年10月14日～11月14日	電子政府
第二回アイデアボックス	2010年2月23日～3月15日	IT政策
第三回アイデアボックス（共催：観光庁）	2010年6月20日～7月12日	休日分散化
第四回アイデアボックス	2010年7月28日～	オープンガバメント
国民の声アイデアボックス	2010年9月24日～10月14日	規制改革
アイデアボックス 北海道 陸別町	2010年8月31日～	Webを活用した新しい広報
アイデアボックス 京都府 伊根町	2010年9月2日～	まちづくりのアイデア
アイデアボックス 埼玉県 鶴ヶ島市	2010年10月1日～	ツイッター商店街

※太字がオープンガバメントラボでの取り組み

図表5 がばった一画面



このようにベストプラクティスを収集することで、今後、オープンガバメントの取り組みを始めたい機関に情報提供を行うと共に、取り組みの記録を残しています。

(6) WebAPIの提供

オープンガバメントラボで提供している情報について、外部や自作のシステム・サービス連携を行うため、必要なWebAPIを提供しています。現在は、アイデアボックスのアイデア、コメント、カテゴリ取得用のAPIを公開しています。

(5) オープンガバメントギャラリー

オープンガバメントギャラリーでは、各府省等におけるオープンガバメントへの先進的取り組みや行政機関横断の取組を、以下の項目に分類して紹介しています。

- ①行政機関を横断した情報提供の取組（例：e-gov、政府統計の総合窓口e-Stats）
- ②2次利用を促進する行政情報公開の取組（例：NII論文情報ナビゲータ[サイニィ]）
- ③行政情報の視覚化等によるわかりやすい提供の取組（例：気象庁天気情報）
- ④カスタマイズされた情報配信（例：総務省マイリンク編集ページ）
- ⑤国民参加・意見募集の取組（例：アイデアボックス、国民の声、熟議カケアイ）
- ⑥ソーシャルメディアの活用（例：twitter、GREE）
- ⑦動画配信の活用（例：政府動画サイト各種、YouTube、ニコニコ動画）
- ⑧モバイル端末等を活用した情報提供の取組（例：各府省携帯向けWEBサイト）
- ⑨コラボレーション（協業）の促進（例：Wikiの活用）

(7) その他特徴

IDの連携機能として、yahooやgoogleなどの他のサービスのIDでオープンガバメントラボの各種サービスにログインできる、OpenIDの仕組みに対応しました。

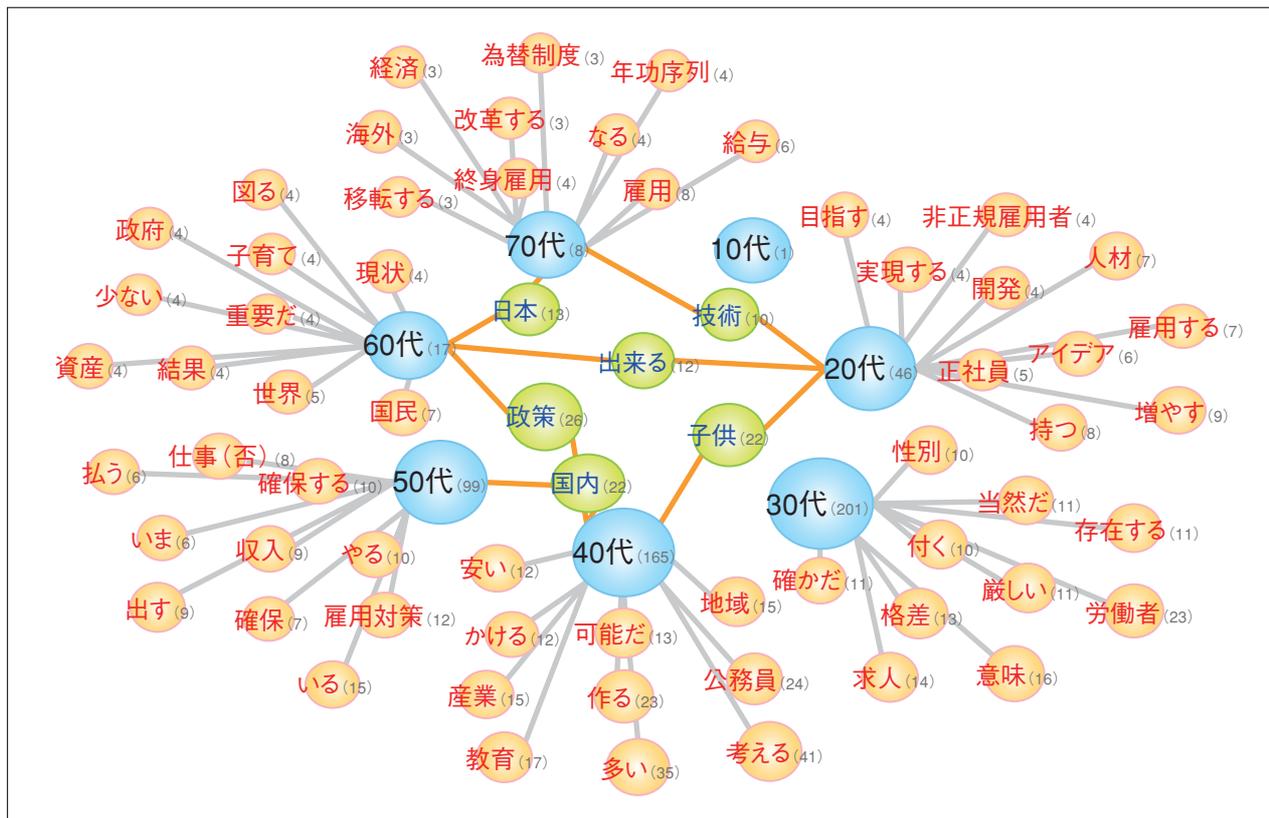
また、アイデアボックス等に投稿されたアイデアを分析するために、テキストマイニングを活用しました。これにより、膨大なテキストデータから、年代別、性別などいろいろな切り口で傾向分析ができるようになりました。テキストマイニングについては、オープンガバメント以外での活用も含めて検証を行っています。（図表6参照）

3-2 運営形態

オープンガバメントラボは経済産業省（商務情報政策局情報プロジェクト室）が内閣官房IT室の協力の下、実施している委託事業です。経済産業省と委託事業者の両方でオープンガバメントラボ事務局を立ち上げて運営をしています。また、データボックスについては、経済産業省統計情報システム室と協力体制を構築しています。

オープンガバメントの一環として契約情報もオー

図表6 「雇用」に関する年齢別の意見を、テキストマイニングを利用して比較したイメージ



ブンにしており契約内容、委託事業者の体制、実施計画書等を、次のURL (<http://openlabs.go.jp/pjinfo/>) で公開しています。今回の契約は、ベンチャー企業を中核に各参加企業の技術、得意分野を組み合わせる形で構築しています。

4

オープンガバメントを推進していく上で見えてきた課題

アイデアボックスの実施や、オープンガバメントを進めてきて、以下のような課題が見えてきました。

(1) 国民からのアイデアの実現とフォローアップの必要性

アイデアボックスに投稿されたアイデアが、どのように活用されていくかが、注目されています。「アイデアを募集するだけでは単なるガス抜きにすぎない」との意見が多く寄せられました。募集した意見については、可能なものから実現姿勢を示すと共に、その進捗をしっかりとフォローアップを行い、公表していくことが重要です。そのため、オープンガバメントラボでは、過去のアイデアボックスの取り組みをアーカイブとして公表するとともに、主要アイデアに対する進捗状況をブログに掲載しています。

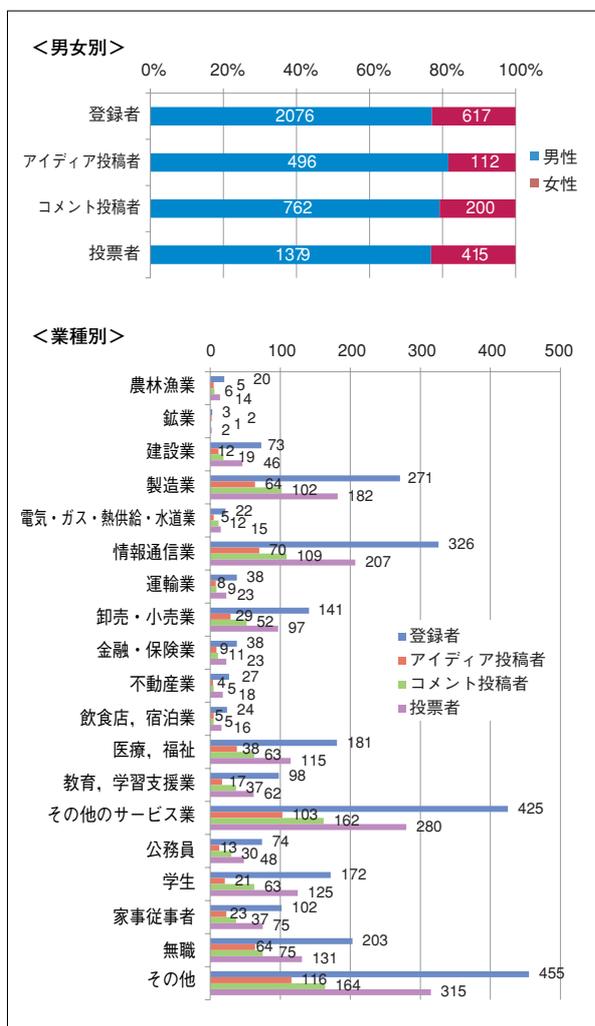
(2) 省庁間や、他の機関との連携

オープンガバメントラボでは、実証実験として、主に経済産業省のデータを利用したオープンガバメントを行っています。省庁横断的なデータの公開や、意見の募集が求められています。省庁横断的にデータの取得ができたり、政策が連携できれば、オープンガバメントの効果がより一層高まると考えられることから、省庁間連携は今後の重要なポイントとなってきます。

(3) オープンガバメントの取り組みに関する広報・周知

アイデアボックスには、「取り組みとしてはいいものだと思うが、周知が不足している」という意見が寄せられました。新聞などの各種メディアに広報するとともにtwitterやGREE等のソーシャルメディアの活用により周知活動を行い、幅広い参加を呼びかけたところ、参加者の偏りは改善されたものの解消には至りませんでした。特にインターネットユーザ以外への周知方法については、今後の課題ととらえています。(図表7参照)

図表7 国民の声アイデアボックス参加者分析



5

オープンガバメントラボの評価と、今後の取り組みについて

オープンガバメントラボによる実証実験は、アイデアボックスに投稿された意見や、ソーシャルメディアに書き込まれている意見では、意見を提出するだけのパブリックコメントと違い、「国からの反応があることによってより政策が身近に感じられた」、「他省庁でもこの取り組みを実施してほしい」等が寄せられました。

今後はこれまでのサイト・システム等の成果、活用実績等のデータを踏まえ、取り組みの評価や効果の検証、システムを活用するための制度面の検討を実施し、より効果的なオープンガバメント実施、取り組みの拡大に関する政策を推進していきます。